

## 第2回 愛知県産業人材育成連携会議 主な発言（要旨）

日時：平成28年3月22日（火）午後2時30分から午後4時まで

場所：正庁（愛知県本庁舎6階）

### ●産業人材育成支援センターの取組と中小企業の人材育成及びキャリア教育について

#### ○委員

・中小企業は、現場も管理、開発部門もすべてにわたって随分人手が不足しており、かなり外国人の労働力に頼る企業が目立ってきている。育成とは少し離れるが、目先の足元の問題から行くと、外国人労働者の問題が非常に重要で、法律ではかなり制限があるが、それにのっとった形で活用できるよう県が指導していくことが大事である。

#### ○委員

・中小企業では、人材育成を独自で行うことがなかなか難しい。中小企業を対象に管理職、中堅社員、新入社員等の階層別、営業、人事、経理等職種別の研修を行っており、今年度は、43講座55回実施し、かなりの方に活用してもらった。

・研修については、県のポータルサイトにも情報を掲載させてもらうことにした。今後も継続的に実施していきたい。

・将来のモノづくりに向けた取組については、県の事業と同じような枠組みで、卓越した技能を持つ企業の社員・OBを小・中学校派遣する出前授業を行う。県との協働事業という形で県内の小・中学校に案内をさせてもらう。特に、機械・金属加工を中心にモノづくりの楽しさや技術を伝承していきたいと考えている。

・産業人材育成にあたっては、現場の実態を踏まえてカリキュラムを作ったり、現場体験をしたりすることが重要である。昨年、アメリカのボーイング関連の巨大な生産拠点を視察したが、自治体、企業、大学といった関係機関が連携して航空機産業向けの人材育成施設を運営していた。理論30%、実習70%といった内容で人材育成を行っており、企業のニーズを踏まえたカリキュラム編成で、現場に近い高度な技術の研修を行っていた。県でも同じような取組を推進してもらいたい。

#### ○委員

・すべての人が活躍できる愛知を目指しての産業人材育成の確保、きめ細かい施策が網羅されていると思うので中小・小規模事業者としては感謝しているところである。施策をいかに実行して効果を上げていくかがこれからの課題。特に雇用、人材の確保は大きな課題。

・就職したい人と雇いたい人とのマッチングがいかに成立するかをやってもらえると有り難い。特に建設の人材不足、建設業の人材育成コースもあるので、有効に活用していきたい。

・ポータルサイトについてもどんどん登録、活用してもらおうよう周知し、人材の確保に努

めていきたい。

## ○委員

- ・事業協同組合等の特に業界団体的な組合においては、若手人材の育成を業界の課題ととらえて人材育成に力を注（そそ）いでいる。
- ・個々の中小企業では、教育体制が整ってないことも非常に多く、資金面でも限界があるため組合が共同事業として行っており、その場合は、法的に会員外利用に制約があるため、産業人材育成のポータルサイトの「研修講座ナビ」への情報登録にはなじまない部分もある。ただ、活用の面では人材育成事業を実施していない組合には是非使ってほしいので積極的に周知して活用していきたい。
- ・「中小企業ナビ」では、愛知ブランド等のデータベースがあるが、中小企業は本当に人材の確保が難しい。新卒者はなかなか来ないし、すぐにやめてしまう。学生は特にネット等を活用しているらしいので、人材確保の面でも企業の宣伝をしてもらおうとよい。

## ○委員

- ・連携会議の実施方法について、大人数なので1人あたりの発言が短くなってしまいうため議論が深まらないのではないかと。会議の方法を検討してほしい。
- ・熟練技能者の技能指導であるが、10年か15年くらい前になるが、県のOB人材を活用する事業で、コーディネーターをしてもらい、大企業のOBと我々中小企業とマッチングをすることで技能検定が社内で進んだことがあった。中小企業は技術よりも生産技術力なので、個々の技能をどう高めるかが国際競争力の基なので、技能検定の取得のための研修を充実させてもらい、全体の底上げをしてもらいたい。また、OB人材を各企業に派遣してもらうのも毎日きてもらってもなかなか育たない。仕事をやりながら教えてもらったことを実践して、週に1回くらい来てもらって1つレベルを上げるとかちょっとした細かな心遣いが入ってくると同じ施策でも随分価値がでる。
- ・一昨年からはセミナー1日職場体験を実施しているが、こういった1日職場体験やセミナーは直接触れるのがよい。社長だけではなく、社員も手伝うため、会社の活性化にもつながるのが非常によかった。
- ・また、インターンシップも学校に喜んでもらって、授業態度が変わると言われている。1人ずつ送り込むのではなく、100名か150名くらいまとめ、きちっとコンセプトも固めておいて、各社の社長が経営理念から語って、社会とは何かをレクチャーする。最後にまとめてどうだったかを言わせる。それから授業態度が変わったと言われている。
- ・どの施策もちょっと手を加えるとよくなるのではないかと。

## ○委員

- ・コンサルティング等個別企業に対する人材育成の研修をメインの事業としてやってお
- り、県の産業人材育成ポータルサイトは、情報の提供の場として有り難く思っている。中

小企業に対し、情報が幅広く浸透していくのは非常によいことである。

- ・研修も行ってこいと言われてもなかなか出てこれない。送り出す側（がわ）もどういう研修か理解も必要で、このポータルサイトを我々のwebとか会員向けのメールニュース等で周知徹底を図っていきたい。

- ・産業人材というか幼少期からの人材の育成という点と少しおかしいが、未来展を3年前からやっている。昨年からコンセプトを変え、小学生、中学生にも参加してもらっている。理科系離れという言葉もあったが、最近は就職には理科系の方がいいということもあってお父さん、お母さんから理科系に進みなさいと言われて、本人の意思と関係なく進む人もいるが、こうした機会に自らモノづくりの楽しさ、技術のすばらしさを体験してもらっている。

- ・当日、ロボット投資や電子ブロックのところは非常に人だかりができていた。中小企業の出展する側（がわ）もきらりと光る技術を持っているが、なかなかアピールができないというところがあるので、企業の活性化を図りつつ進めていきたい。

## ○委員

- ・「育成」と「確保」以外に「定着」というカテゴリが欲しい。

- ・人材不足の分野の処遇改善ということでは、検討課題として介護、保育などを含めた分野は、賃金でも平均10万円安いとデータで出ている。その分野の対応について、定着に向けた取組に踏み込んでもらいたい。

- ・併せて定着という意味では、若者の早期離職、女性の活躍でいくと、結婚、介護、出産、育児など様々な要因があるわけであるが、もう少しハード、ソフト面の環境整備をする中まずは働き続けるという環境づくりが極めて重要である。

- ・厚労省や労働局から様々な助成金や奨励金があるので、横の連携を十分図りながら様々なメニューで取組を進めていく必要がある。

- ・人材育成とは少し違うかもしれないが、介護、保育士も含めて非正規から正規への取組を定着というカテゴリの中では極めて重要だと認識している。

- ・キャリア教育については、ブラックバイトという言葉があるが、特に高校生くらいだと、最低限知っておきたいワークルールがある。事前にトラブルを防ぐとか、働くものが泣き寝入りをしなくていいようなルールをメニューに入れて知識を持って働ける仕組みを盛り込んでもらいたい。

## ○委員

- ・学生の頃から小・中高大学と何らかのキャリア教育は受けてきており、それらが連携したキャリア教育の必要性を感じていた。ポータルサイトで学校、中小企業等の行うキャリア教育情報を常時発信する内容として入っているので、上手に活用して中小企業等の情報を参考にして小学校から大学まで一体化したキャリア教育が実現できればより効果的な教育につながる。

・インターンシップについては、中部学生就職連絡協議会では愛知県、岐阜県の大学、短大等 100 余りと特別会員の企業、団体と連携してインターンシップを活用したキャリア教育に取り組んでいる。大学ではインターンシップをより効果的に進めていくに、インターンシップに行くまでの学内教育、インターンシップから帰ってきてからのケアに力を入れていきたい。

・人材確保について、大学側の視点からすると「定着」という意味でも人の教育は環境だけではなく、必要な要素である。

・その中で女性の活躍は必須であり、どのように女性に活躍してもらい定着してもらうかの課題として、まずは結婚、出産がある。スーパースターというところを見せるだけでなく、非常に身近なモデルケースを紹介しながら誰しもがそうやって活躍、両立していけるのだという取組をやっていきたい。

### ○委員

・私立の高等学校は 55 校あるが、そのうちインターンシップを実施しているのは 10 数校あるが、その現状は、幼稚園などの教育実習的な内容がほとんどである。

・いろんな企業等へ生徒たちをインターンシップに出している学校は非常に少ない。理由としては教える側（がわ）の教員が企業とはどんなところか知らないの、職業教育、キャリア教育に関することはほとんどわかっていない。何年か教員を経験すれば、職業教育をしてわかってくるが、この数年、若い先生はできない。

・ある学校ではインターンシップを取り入れてやっていきたいけど、自分たちでできないから業者に依頼して実施するという学校も出てきている。

・今後、キャリア教育を進めるには、学生の教育が、特に教員志望に対するインターンシップ、キャリア教育をしないと教育界には伝わっていかない。

### ○委員

・キャリア教育というと職業教育に直接関わるものというイメージがあるが、小中学校の場合はそれ以上に子供たちに夢をはぐくむ、あこがれを持たせる、自分の生き方を見つめる、自分の与えられた仕事をきちっとするという意味で誠実さ、責任感等人格形成が広い意味でキャリア教育ととらえてやっている。

・限られた時間の中であろうが、モノづくりの体験、職場の体験も大切にしていきたい。

・特に中学校の職場体験学習は 10 年余り全中学校が取り組んでやっており、非常にいい活動になっている。今後も継続した取組として進めていきたい。

### ○委員

・一昨年、専門学校の学科を文部科学大臣が認定する職業実践専門課程が設けられ、県では 44 校の 171 学科が認定されている。

・認定には要件が大きくふたつあり、ひとつは学校と企業が連携してカリキュラムを作る

こと、もうひとつは教職員も各企業と連携しながらスキルアップのための研修をするということとなっている。

・更に学生への今後のインターンシップの企業の拡大拡充のためにもポータルサイトも我々学校自身が積極的にこれを利用しなければいけない。

#### ○委員

・ポータルサイトで幅広い事業者にも活用してもらえそうなそれぞれの団体が行っている人材育成事業にも触れてもらおうとよい。

・産業人材育成支援センターは、コーディネーターには技能検定などの取組を周知してもらおうことが、この地域の若い人材の技能振興が図られていくのではないかと。

#### ○委員

・在職者、離職者に対する職業訓練等を行っており、在職者訓練は500コース、大体6,000人くらい訓練を行っているので、ポータルサイトにも提供する。

・来年度の特徴的な取組としては、県と航空機製造業界との連携した製造航空機組立て技能者育成コースを20日間、9回実施する予定としている。

#### ○委員

・座学だけではなく、ゼミナールを通じた実践的な研修で地域の人材の育成支援をしている。

・28年度は30コース強用意して中小企業者向け研修を行っていく。新しい試みとしては、受講者を派遣する企業にとって業務上の制約を緩和することを狙いとして夜間の研修も実施してみたい。

・従来受講している企業、約30,000名強あるが、新しい企業に県のポータルサイトでも広く周知してもらいたい。新規の受講者の獲得に向けて取り組んでいく。

・今後も地域の役に立てるような研修を広く周知し、活用してもらえよう地域の支援機関と連携してやっていきたい。

#### ○委員

・どうこの中身をしっかりと具体的なものにしていくか、どう発信していくかということだと思う。

・愛知県でモノづくりの日本の将来の方向に対する取組を行うことは全国の自治体に影響力を持つ。

・そうした視点から、どこの県でもやれることをやっているだけでなく、愛知県がやると日本国内全体、また世界のモノづくりの指針になりうるというような気概で進めてもらいたい。

・モノづくり自体が劇的に変わりつつある中で、中小企業だけではなく、大企業も含めて、

従来のかたちでは成り立たないようなことが起こっている。そういった時代に対処する指針を県は出さなければいけないのではないか。

- ・加工技術ひとつを例にとっても、除去加工から付加加工に大きく変わってきているなど、今までのモノづくりの全体が大きく変わってきている。
- ・大企業でも中小企業でも従来どおりのことをやっていたらやっていけないことを十分承知して何らかの指針を示していく役割を県は担っていかなければならない。
- ・もう一つは、若い人に向けた魅力のある愛知県のモノづくりを作らなければいけない。
- ・たくさんの伝統をもった企業がある。そういうところが積極的にアピールして、モノづくりの技術に限らず、技術をどううまく有効に活用していくかということに広げた取組をしていかなければならない。そういう部分までも含めて、技能伝承や人材育成としてとらえる必要がある。
- ・どこでもやっていない、色がでることをやってほしい。
- ・スピード感をもってイノベーション人材、基盤を支える人材を育成するきめ細かい取組が必要である。

## ○委員

- ・ポータルサイトについては、情報共有の一元化という意味では大きな効果を発揮すると期待している。これをいかに活用するかという意味では、頻繁にリアルタイムに情報更新をしていくことが大事である。加えて外国人労働者をもっと活用する必要があることが指摘され、留学生を活用することも書かれていたが、そういうことを考えるとこのポータルサイトは英語版を作ってもらえるとより幅広く活用されるのではないか。
- ・英語版があれば、愛知県がこのような取組をしていることを海外の企業からも見てもらえ、よりグローバルに開かれた産業集積地であることのPRにもつながる。
- ・近い将来、モノづくりの在り方が大きく変わると言われている。技能の問題をとらえても、ルーティン的な技能を中心に3分の1以上の職はICTによって消えていくと言われている。そういった状況に鑑み、モノづくり大国であり、世界有数の産業集積地である愛知県がどう対処していくかをもう少し中長期的な視点を持って考えていくべきである。AIが囲碁名人を倒したり、小説を書いたりしたことが報道されている。そうなるルーティン的な仕事だけではなく、知識産業、知識人材が担っていた仕事でさえ、AI、ICTによって代わられる時代が来ないとも言えない。次代を担う若者をいかに産業人材に育てていくのかは非常に大きな問題である。
- ・アメリカではSTEM（Science・Technology・Engineering・Mathematics）分野に小中学校の頃から非常に力を入れている。狭い技能だけではなく、分析能力、課題発見力、課題抽出力といった汎用性のある、かつどの産業にも重要である技能の育成にも同時に取り組んでいく必要がある。

## ○委員

・中小企業・小規模事業者の皆様が人材確保に非常に困っている状況から考えると、これから中小企業を支える人材として若者はもちろん、女性であったり、シニアであったり多様な人材が中小企業で活躍できるような体制を作っていくことと、人材育成のいろんなスキームといったものがリンクしていくことが必要である。

・若者については、就職後の定着率が非常に悪いところがある。学生の時代に行うインターンシップや職場体験が非常に意味を持っている。そういった活動が広く行われることで若者が目的意識を持って就職し、活躍していくところに、この人材育成のポータルサイトであったり、情報の一元化といったものが貢献するような形になればよい。

・航空機産業についても、この地区が日本を代表する一大集積地であり、特に中部地域は航空機の機体部品製造が全国の70%を占めているという中で、航空機の構造組立てに関する技能育成講座の設置に関して、三重工や、この地域の関係機関と連携して技能レベルの標準化とそれに基づく共通カリキュラム、テキストの作成ということを中部航空宇宙産業技術センターで行った。作成されたカリキュラムとテキストを用いた実証授業がポリテクセンター中部と岐阜県のVRテクノセンターで行われ、来年度から本格的な開校となる。それに対して県から財政的にも支援してもらうことになっている。中部地区ならではの活動がこの地区をベースにして更に発展していくことを期待しており、応援していく。

## ○委員

・愛知県経営者協会が、今どきの若者のOJTの指導のやり方の事例集を作られていて非常によくできている。経営者団体がこういうことをするのは非常にいいと思う。

・ブラック企業とかブラック対策という言葉は使わないが、高校や大学に労働基本講座を行ったりしている。

## ○間所労政局長

・こうした形で情報を共有して、課題となるべきところを明らかにしてひとつの方向に進めたいというのがこの会議の意義であり、そうやっていきたい。

・連携会議の進め方を来年度は考えていきたい。

・愛知県がモノづくりのトップであることから全国からも注目されているので、先進的なことをやってほしいという意見があった。ポータルサイトや人材育成支援センター、キャリア教育、インターンシップに力を入れようというのはひとつの先進的な取組として今回は象徴的にやり始めた。まずはこれに魂を入れてやっていきたい。

・モノづくりが劇的に変わるという意見があった。これはここだけで議論するものではない。それぞれ持ち帰り、県も担当部局があるので、そこでフィードバックをしていく議論だと思う。

・このポータルサイトも中小企業の方に見てと言ってもなかなか見ない。本日参加の方や指導員、コーディネーターの方が見て、利用の仕方を伝えていってもらいたい。また情報の更新についても団体等の協力を得てやっていきたい。

- ・定着、人材確保の話は、キャリア教育が重要であるということと、中小企業の中で人材育成機能を高めることがひとつの答えとなると考えている。キャリア教育の中にインターンシップを取り入れて学生自身が適切に行きたいところを選ぶということをやってもらいたい。

- ・中小企業がインターンシップを受け入れたことがないとか、自社の研修制度がどうなっているのかを示さないようでは人材確保も難しいと思うので、県としてもコーディネーターを設置し支援を行うので、中小企業の人材育成力を高めていきたい。

### ○森岡副知事

- ・産業界、労働界、教育界、職業能力開発機関の方々、行政とそれぞれの立場から中小企業の人材育成、キャリア教育、職業教育の連携強化について、意見をもらった。次回からは深い議論ができるように考えていきたい。

- ・愛知県はモノづくりの県だが、モノづくりそのものが変質するというのは当然視野に入れて人材育成を考えていかないと、変な方向で変な人材育成をしてはまずいとの意見があった。また、中小企業のひとつづくりを更に支援をしていくことや、小学校から大学の教育機関において職業観の醸成が極めて大事で、そのためには学生だけでなく、先生もしっかりと世の中、企業を知ることも含めて考えて環境を整えていくという意見もあった。こうした意見を踏まえて今後も議論していく場を設けていきたい。併せて県が行う新たな取組を実施する場合には皆さまからの意見をしっかり反映させていきたい。

- ・加えて意見交換ももっと活発になるよう、わかりやすくものごとを発信していくことにも力を注（そそ）いでいくことが大切である。